

令和 2 年 6 月 23 日現在

機関番号：32604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K02259

研究課題名(和文) 日本語文学における検閲とジェンダー

研究課題名(英文) Censorship and Gender in Japanese-language literature

研究代表者

内藤 千珠子 (NAITO, Chizuko)

大妻女子大学・文学部・教授

研究者番号：20433708

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：大正・昭和期の新聞・雑誌メディアの言語と小説の言語を分析対象とし、ジェンダーをめぐる言説論理が検閲制度とのかかわりによってどのように形成されたのかを明らかにしようとするのが、本研究の目的であった。検閲システムとしての伏字は、ジェンダーの力学に基づいて形成されたのであり、記号としての伏字は、目に見える死角として機能してきた。すなわち、伏字が暗黙のルールによって読まれるとき、他者を排除する力学が作用するが、その際には、ジェンダーの力学が仲立ちとなっている。検閲という観点から、日本語文学におけるジェンダー編成を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

かつて検閲と関わっていた伏字は、現代の日本語のなかにも、文章や単語の一部が「や」印と置き換えられるというかたちで、形式的に残っている。一部が見えないのにもかかわらず、知識と想像力を働かせて理解しようとするとき、伏字をめぐる歴史的に構成された枠組みが作用するが、本研究は、伏字というシステムが、他者に対する排除や無関心と、構造的に関係していることを明らかにした。本研究の成果により、日本語の形式にかかわるジェンダーやナショナリズムの力を、目に見える形で議論するためのひとつの枠組みを提示することができたと思われる。

研究成果の概要(英文)：This research was focusing on how the discourse logic of gender has been formed by a connection with the Japanese censorship system. Targets of an analysis are language of newspapers or magazines in the Taisho-Showa era and Japanese-language novels. The blank type as the Japanese censorship system was built on gender politics and acted as a visible blind spot. When this blank type is read based on a tacit rule, the dynamics from which others are excluded act on it through gender politics. This research inspected the gender organization in Japanese-language literature from the angle as the Japanese censorship system.

研究分野：日本語文学

キーワード：文学 ジェンダー メディア

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本近代文学研究における帝国主義や国民国家論を主題とした学術的議論は、人文学系の諸領域における研究と同様に、脱領域性を意識して行われてきている。文化研究、ジェンダー研究、ポストコロニアル研究、あるいはそれらの理論を踏まえた国内外の研究の流れを受け、従来の手法を超える形で、脱領域的な方法論が要請されるという状況にあった。近代日本文学研究の分野でも、文学研究を出発点とし、文化の諸領域を問題にする研究が行われており、申請者の研究活動もまた、広域的な研究を目指そうとする状況からその着想を得て実践されたものであった。

(2) 2000年代から2010年代にかけて、脱領域的・広域的な近代文学研究は、メディアという主題を中心に行われてきた。文学とメディアという問題系を主題とした研究のなかで、極めて重要な学術的課題として議論されているのが、検閲と文学というテーマであった。紅野謙介『検閲と文学』(引用文献)、鈴木登美・堀ひかり・宗像和重・十重田裕一編『検閲・メディア・文学』(引用文献)、ジェイ・ルービン『風俗壊乱 明治国家と文芸の検閲』(引用文献)など、文化研究的な雑誌研究の延長において議論が重ねられ、また、韓国との共同研究として紅野謙介・高榮蘭ほか編『検閲の帝国』(引用文献)が上梓されるなど、検閲という主題はメディアと文学を考察する上で、外すことのできない視点として浮上していたのである。

2. 研究の目的

(1) このような学術的状況を背景として、検閲制度としての伏字とジェンダーの力学との相関、伏字が言説テキストの上でどのような効果を担っているのかを理論的に位置づけることが、本研究の目的であった。従来の諸研究において、国家による制度として考察されてきた検閲の問題を、伏字という具体的ファクターから検討し、これまで明らかにされていないジェンダー化のポリティクスと関連づけて理論化することを目指した。メディアとジェンダーの相互関係を正面から扱うという学術的特色をもった本研究によって、近代ジェンダー編成と検閲、そして文学的磁場との関わりを明らかにするとともに、東アジアの検閲と文学をめぐる研究のなかにも、新たな論点を提示することを目的とした。

(2) 伏字とは、あるはずのものを不可視にするシステムである。記号としての伏字は、論理あるいは物語における空白と結びつけて理論化することが可能な要素である。ジュディス・バトラーは『戦争の枠組』(引用文献)で「規範」をめぐるジェンダー構造のありようを新たに明確化しているが、その理論構図を背景に、具体的な資料分析を通じて伏字とジェンダーという主題を批評理論のなかに位置づけたいと考えた。

3. 研究の方法

(1) 研究期間内には、新聞・雑誌メディアと小説との相関関係を検討するために、1910年代から1930年代を中心とする時期の日本語一次資料の収集を進めた。人文学系の研究分野で扱われてきた近代日本をめぐる問題系に対して、言語態分析というアプローチ方法を用いて考察を行うこととした。言語態分析は、言葉のさまざまな実践様態を具体的な言語活動としてとらえ、総合的に分析する方法論であり、種々の研究分野間に接続地点を作り、従来の研究を総合して脱領域的に研究可能にするという学術的な特色を持っている。したがって、あらゆる言語態に属する文字資料を広く対象として分析した上で、メディアの言語や文学的言語が時代の認識構造をどのように構成・強化してきたのか明らかにすることが可能となる。

(2) 検閲と文学という主題で、日韓の共同研究にかかわり、また、アメリカの研究者との交流を通して、ジェンダーと検閲という観点から東アジアの文学研究のなかに新たな考察の地平を導入する。そうした観点の延長で、ジェンダー化された検閲という歴史的な構図が、現代文学とどのようなかかわりをもち、とりわけ女性作家の小説テキストといかなる引用関係を示すのか明らかにすることを目指した。

4. 研究成果

(1) 大正・昭和期に構成された言説論理の構造と、現代における明治・大正期の物語の表象について検証するために、資料調査を積み重ねることができた。期間中は、大妻女子大学図書館、国立国会図書館、国文学研究資料館、都立図書館等で、一次資料を収集した。また、ジェンダー論やセクシュアリティ研究、クィア理論に関する理論的文献について、国内、国外でのワークショップや研究集会等での発表や討議を通じ、新たな理論的地平を獲得することができた。その成果を、単行本、論文のかたちでまとめた。

(2) 検閲とジェンダーというテーマを理論的に考えるために、「伏字的死角」というキーワードを中心に検証した。伏字はジェンダー構造を下敷きにしてマイノリティを不可視にするという記号的効果を構成している。その記号的効果について、他者を不可視にすること、不可視であるが復元できる意味を知る共同体があり、暗黙のルールによって意味が与えられること、既知であるという構造から無関心が生じること、といった論理の構成を見出した。こうした記号的効果によって生まれる問題構成について、民族とジェンダーの側面から考察をし、検閲という制度から生成する日本語の言説構図を提示することができた。

(3) かつての伏字による検閲とは異なり、占領期には不可視にされた検閲が媒介するかたちで、言説の生産がなされたが、そこに生じる連続性と切断性について、性暴力というテーマを設定し、分析をおこなった。近代日本の言説のなかに、戦争や植民地主義の論理が定着していく過程で、ジェンダーの力学がどのように関わり、伏字を含んだ論理構造が形成されていったのか、暴力の表象を通じて論じた。大正・昭和期のジェンダー構図の定型を引用して成り立った現代小説のなかに、戦争と暴力の問題系が、傷を含んだ記憶を物語として構築される過程に注目し、検閲的な言説をジェンダー論的な観点から明らかにした。

(4) 検閲システムと論理的に結びついた戦時性暴力の構造について、可視と不可視の境界線がどのように記述されるかという観点から、女性身体と暴力の構造、セクシュアリティをめぐる規範の生成、それにかかわる検閲的な禁止の問題について考察を進めた。そのなかで、プライベートな領域の策定と公への「現れ」を規制するセクシュアリティの制度について検証するとともに、検閲をめぐる感性がナショナリズムの情動とどのように切り結ぶのかを検証し、その情動と性暴力の関連について明らかにした。公的な空間と、私的な空間を二分化する力学について、身体のポリテクスという観点から新たな視座を提示することができた。

(5) 革命の物語に現れる性的な禁止と政治的な禁止の構造について考察し、検閲システムに内在する禁止の効果が、物語の記述にどのように作用するのかという観点から、女性身体をめぐる連続する可視と不可視の暴力の構造、それにかかわる検閲的な禁止の問題について考察を進めた。その結果、メディアの言語のなかで構成される物語定型と、小説の言語を通じて展開された物語構造との間に共通する要素を抽出することができた。しかしながら、小説の言語には、定型との差異が含まれるため、定型を転覆する力学の考察からは、革命という主題をもった文学テクストと、ナショナリズムの磁場においてあらわれるセクシュアリティとジェンダーをめぐる情動について明らかにすることができた。歴史的に構成された検閲をめぐる感性、ナショナリズムの情動、性暴力の構造の相関について提示することができた。

(6) 伏字をめぐる研究は、従来、表現の自由という観点から、とくに性的な表象に限定されて実践されてきた面があったが、研究を通じて、ジェンダー理論、セクシュアリティ研究、フェミニズム研究、ポストコロニアル研究を背景として、政治的力学と表現という主題を学術的に深化させることができた。

引用文献

- 紅野謙介『検閲と文学』河出書房新社、2009年。
鈴木登美・堀ひかり・宗像和重・十重田裕一編『検閲・メディア・文学』新曜社、2012年。
ジェイ・ルービン『風俗壊乱 明治国家と文芸の検閲』今井泰子ほか訳、世織書房、2011年。
紅野謙介・高榮蘭ほか編『検閲の帝国』新曜社、2014年。
ジュディス・バトラー『戦争の枠組』清水晶子訳、筑摩書房、2012年。(Frames of War: When Is Life Grievable? London& New York, Verso, 2009)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 内藤千珠子	4. 巻 68-1
2. 論文標題 経済化する身体	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 69-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千珠子	4. 巻 50
2. 論文標題 帝國的性暴力と「恥辱」の被傷性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大妻国文	6. 最初と最後の頁 123-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千珠子	4. 巻 49
2. 論文標題 戦時性暴力と身体 林芙美子「浮雲」における傷の表象	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大妻国文	6. 最初と最後の頁 115 - 133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千珠子	4. 巻 48号
2. 論文標題 戦争の性暴力を証言する	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大妻国文	6. 最初と最後の頁 151-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千珠子 (翻訳・キムソキ)	4. 巻 第26巻4号
2. 論文標題 愛国的無関心とジェンダー 現代日本の情動のフレーム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア太平洋研究	6. 最初と最後の頁 7-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千珠子	4. 巻 51号
2. 論文標題 革命とジェンダー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大妻国文	6. 最初と最後の頁 195-219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 内藤千珠子
2. 発表標題 恥辱と中傷のナショナリズム
3. 学会等名 日本近代文学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内藤千珠子
2. 発表標題 戦時性暴力と身体 林芙美子「浮雲」における傷の表象
3. 学会等名 大妻国文学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内藤千珠子
2. 発表標題 戦時性暴力と証言
3. 学会等名 Trans-pacificワークショップ(米国UCLA)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内藤千珠子
2. 発表標題 愛国的無関心とジェンダー
3. 学会等名 HK国際ワークショップ(韓国、慶熙大学校)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内藤千珠子
2. 発表標題 戦時性暴力と情動のフレーム
3. 学会等名 Trans-pacificワークショップ(米国UCLA)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内藤千珠子
2. 発表標題 経済化する身体
3. 学会等名 Gender and Japan Studiesワークショップ(米国カリフォルニア州立大学ノースリッジ校)(国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 内藤千珠子	4. 発行年 2015年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 255
3. 書名 愛国的無関心	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----